



— 11 —

1月1日、私たちは石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震という厳しい試練に直面した。地震

ボルテックス

安田 憲治



学的には北西―南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で発生し、震源地は能登半島の沖合で、震源の深さは16^{キロメートル}であった。

建物の損壊、道路の寸断、通信の遮断など、多くのインフラに深刻なダメージを与え、とりわけ古い建物や耐震

続可能な社会を目指すうえでの大きな課題となった。

日本経済に及ぼす影響については、地震による製造業や農業、水産業の停滞、およびサプライチェーンへの影響を考慮し、野村証券の試算はGDPを230億円から500億円押し下げ、SMBC日興

プされた。

科学者たちは長年、地震予測の研究に取り組んできており、国土交通省「日本海における大規模地震に関する調査検討会」は、日本海側で発生する可能性のある大規模地震について調査を行い、能登半島沖を含む日本海側の活断層

2024年能登半島地震、災害から学ぶ持続可能性

性の低い建物が大きな被害を受けたことは、私たちが自然災害に対する備えの重要性を再認識するきっかけとなり、また地震後の復興作業は、持

証券の試算はGDPを640億円押し下げることを見込んでいる。

このような中、地震予測の重要性が改めてクローズアッ

についての予測を2014年に発表していた。

24年、その予測されたシナ

リオが現実となり、能登半島地震が事前の科学的予測に基づき活断層に沿って発生し、

予測の精度と地震学の重要性が改めて確認された。予測はあくまで可能性を示すものであり、その発生時期や規模を

正確に予測することは難しい。また、予測が現実と一致したとしても、その地震がもたらす影響は予測以上のものであることが多い。このようなギャップを埋めるために、さらなる研究と技術の進歩が求められる。

今回の地震が示したことは、持続可能な社会を築くための大きな挑戦である。災害の中で苦難に立ち向かい、復旧に尽力する人々への敬意と感謝は、私たち一人ひとりとって重要だ。これらの人々の勇気ある行動は、地域社会の絆と互助の精神がいかに重要であるかを教えてくれる。

自然災害への備えは、物理的な安全対策を超え、コミュニティの協力関係と支援体系を強化することを意味する。この困難な時期を経験し、私たちは互いへの理解と支援の価値を再認識する。

◇やすだ・けんじ 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。大手総合アミューズメント企業で、データサイエンスの経営戦略への反映に取り組む。現在、株式会社ボルテックスにて、社内データコンサルティングに携わる。多摩大学社会的投資研究所研究員。